

中医鍼灸セミナー

2025/03/23（日） 上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

第一部分 腧穴についての概論

（一）腧穴の定義

腧穴の別名：孔穴・穴道・穴位 《黄帝内経》では、節・会・孔・空なども記載

腧 → 輸と同じ、気血を移し運ぶ意味（機能）

穴 → 隙間、くぼんだ所の意味（形）

（二）腧穴の分類

1. 位置による分類 ①経穴 ②経外奇穴 ③阿是穴

2. 使用法による分類 ①一般腧穴

②特定腧穴（四総穴/六総穴・八会穴・原絡穴・募兪穴・郄穴・五輸穴）

（三）腧穴の名称

1. 所在部位に基づく 例え：腕骨、乳根、顴膠、大椎

2. 治療効用に基づく 例え：睛明、光明、水分、牽正

3. 天体地理に基づく 例え：承山、大陵、太谿、合谷、水溝、湧泉、小海

4. 動植物名に基づく 例え：伏兔、魚際、犢鼻、攢竹

5. 建物名に基づく 例え：天井、印堂、巨闕、地倉

6. 中医学名に基づく 例え：三陰交、氣海、血海、心兪

（四）腧穴の機能（効用）

1. 表裏の交通 2. 神気の輸注 3. 感受の反応

（五）腧穴の応用

1. 診断上の応用 ①感覚反応 ②病所の確定

2. 治療上の応用 ①近所治療 ②遠所治療 ③特別治療

（六）腧穴の定位

1. 指寸法定位法（同身寸）

2. 骨度分寸定位法

3. 体表標識定位法

4. 簡便定位法

第二部分 お灸及び臨床応用法

(一) 灸の字義

久—長久の意味； 火—火の使用、加熱の意味

(二) 灸の材料

艾（よもぎ・もぐさ）

性味：辛、苦，性温；帰経：肝・脾・腎経；効能：温経止血・散寒止痛 外用祛湿止痒

主治：①出血（吐血，衄血，崩漏，月经过多，胎漏下血）

②少腹冷痛、経寒不調、宮冷不妊 ※芎帰膠艾湯

③外治皮膚瘙癢

(三) 灸法の起源

1. 火 2. 艾 3. 脈

(四) 灸法の常用方法

1. 直接灸 2. 隔物灸 3. 温鍼灸 4. 棒灸

(五) 灸法の注意事項

1. 熱、火傷に注意すべきである。
2. 顔面部、浅層に太い血管が走行する部位、関節部、皮膚病患部などの処で直接灸禁止である。
3. 妊婦の腹部や腰部の灸治療が慎重にする。
4. 原則として寒証に対応する。

(六) お灸の臨床応用

1. 温陽扶正 2. 温経散寒 3. 行気活血通絡

第三部分 花粉症眼鼻症状の改善における鍼灸療法の弁証論治

●中医学では花粉症は「鼻鼽」に属します。

(一) 中医弁証

1. 症状 ●季節性発作

●鼻塞（鼻詰まり）・流涕（鼻水）・噴嚏（くしゃみ）・眼痒・目赤（充血）・流涙
耳（道）痒・上顎痒・舌痒・皮疹

●随伴：咳嗽・哮喘・吐き気・嘔吐・腹痛・下痢・皮膚搔痒 など

2. 診察 ①望診 ②聞診（声） ③問診 ④切診（※脈診）

3. 分析帰納

- ①病勢緩急 慢性・急性
- ②病因病機 「肺衛不固・邪氣阻竅」⇒眼鼻症状
- ③正邪盛衰 実：風寒熱襲表・肝鬱化火・血瘀阻脈
虚：肺脾腎虚弱・気血津液不足
- ④病位表裏 表：五竅（鼻眼耳） 裏：臟腑気血津液
- ⑤病性寒熱 熱：風熱襲表・肝鬱化火・肺腎虚弱（陰虚）
寒：風寒束肺・瘀血・脾腎陽虚

※花粉症鼻眼症状の弁証のまとめ

- 「本虚標実」 虚 ⇒ 肺脾腎虚証
実 ⇒ 外邪：風寒熱証 / 内邪：火湿瘀証

(二) 鍼灸治療

1. 治療原則 総治法：■解表疏経通竅 ■扶正祛邪

弁証治法：●風寒→疏風散寒

●風熱→阻風清熱

●肝火→疏肝泄熱

●肺脾腎虚→脾肝腎補益

2. 経絡腧穴処方 ①経脈処方 督脈 任脈 大腸経 三焦経 膀胱経 胃経 肺経 心経 心包経 腎経 脾経 肝経

②腧穴処方 ●基本配穴（選穴）

印堂 睛明 迎香 鼻通 風池 太陽 尺澤 合谷

●弁証取穴

■風寒証 風府 肩井 外関

■風熱証 風府 大椎 曲池

■肝火犯肺証 行間 太衝 尺沢

■肺虚 太淵 中府 肺俞

■脾胃虚 脾俞 胃俞 中脘 足三里

■腎虚 太谿 腎俞

■気血不足 気海 関元 血海 足三里

3. 鍼灸方法 ●鍼刺法 直刺法 浅刺法 留鍼 瀉血法

●灸法 棒灸・隔物灸・温鍼灸

●拔罐法（吸い玉） 定/移罐法

4. 施療 1. 体位：臥位・座位

2. 補瀉： ●腧穴 補：気血臓腑の腧穴 瀉：祛邪の腧穴
- 技法 鍼刺法——提挿捻転 瀉血法
- お灸法・拔罐法
- 施療時間